S011 「時間」と「空間」のなかで自己の変化を捉える

敬学館 210

企画者	立命館大学	サトウ タツヤ
企画者	京都大学	安田 裕子
司会者	名古屋大学	荒川 歩
話題提供者	京都大学	溝上 慎一
話題提供者	International Institute for the Dialogical Self	Agnieszka L. Hermans-Konopka #
話題提供者	京都大学	安田 裕子
話題提供者	大阪教育大学	白井 利明
指定討論者	Radboud University	Hubert J.M. Hermans #
指定討論者	札幌学院大学	森 直久

概 要

「自己」はいかにして捉えられるのか。自己が固定し一貫したパーソナリティをもつ存在ではなく、場や関係性、そして、時間経過のなかで変化してゆく可能性を含む存在とする見方がある。本企画では、「時間」や「空間」を切り口に自己の変化を捉えようとしてきた研究者にご登壇いただき、独自の観点を明確にして、変化する自己の捉え方を発表いただく。その後、フロアの声を変え、自己の捉え方についてともに考えたい。

ポジショニング概念によって異世界となる自己世界とその形成プロセス 溝上慎一

対話的自己の理論的装置の一つにIポジションがある。ポイントは、空間的に併置された私群のなかからある私にポジショニングすることで、同じ自己世界なのにまるで違ったように見える点にある。今回は、このIポジションが青年期アイデンティティ形成をテーマに、どこに示唆を与えるのかを報告する。

感情を空間的に表現する感情コーチング法としてのマインドスケープ (mindscape)

Agnieszka L. Hermans-Konopka

「マインドスケープ (mindscape)」法は石庭にヒントを得たもので、自身の様々な感情を空間的(かつ審美的)に表現するものである。この手法を用いると、自身の様々な感情との対話的關係を作ることができ、否定的感情を受け入れることも容易になる。感情の対話的自己法と呼ぶこともでき、カウンセリングや研究にも適用可能である。

不妊治療者の選択と径路 — TEM を用いて 安田裕子

人生物語はいかに提示しうるのか。本発表では、不妊治療者の人生物語を題材に、人生における歩みを、選択に焦点をあてつつ時間を含めて捉える方法について考えたい。その際、TEM(複線径路・等至性モデル)という、人生や発達の高多様性・複線性と時間に留意した分析枠組みを用いる。

人生はどのように立ち上がるのか — 時間論の視点から 白井利明

アイデンティティのうち連続性の側面はどのように形成されるのか。現在における過去の捉え直しが注目されるが、未来の立ち上がりはあまり注目されない。未来は未定であり、さまざまな可能性に開かれている。連続性は、変化の解決であり、未定に対する対処である、と考える。

S(11)